

一般社団法人WATALIS 平成26年度事業報告書

事業名	地域に学びの環を創ろう「みんなの手しごとワークショップ」	実施期間	平成26年10月～平成26年11月
-----	------------------------------	------	-------------------

事業目標

<p>【目的】 被災地域に暮らす一人ひとりの心が癒され、生きがいを見出し、笑顔で前向きに生きようと思えるようになるために、“心が安らぐ学びの場”“知恵や技術を伝承する場”“誰もが活躍できる場”となる新たな地域コミュニティと“学びを地域に還元していく仕組み”を創る。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災による住環境の変化などで、家に引きこもりがちだった高齢者に外出するきっかけができる。 子育て中の母親の心が癒され、子どもや家族に優しく接する事ができるようになる。 手しごとに集中することで、将来への不安による悲観的な考えから離れ、気分を切り替える時間が出来る。 被災により近所や親戚との付き合いを絶たれた人たちが、誰にも気兼ねなく出入りし、集まることができる新たな地域コミュニティができ、被災地域内の交流が活性化する。 仲間ができることで、「私は一人ぼっちではないんだ！」という安心感と心の安定が得られる。 ワークショップで学んだことを、自分が先生となり子ども達に教えることで、生きがいと活躍の場が生まれる。 世代間交流による手しごとの技術や知恵の伝承を通して、学びを地域に還元する地域貢献の循環ができる。
--

事業内容

<p>子どもから高齢者までの地域住民を対象として、手しごとワークショップと茶話会を組み合わせて定期的(毎月2回×9ヶ月)に実施する事業。ものづくりを通して地元で伝わる縫製技術の素晴らしさに触れながら、震災で傷ついた心を癒し、生きがいの再発見や地域社会との繋がりを再構築する「場創り」に本格的に着手する。</p> <p>このワークショップに参加した大人たちが、自分たちが学んだ手しごとの技術を子ども達に伝えることで地域に還元する場を設定し、新たな地域貢献の在り方を見出していく。</p> <p>運営に際しては、参加者の居住地には特に制限を設けず、広域的な交流の場とする。また、参加者の事業への参画を促しつつ、互いに交流しながら楽しく学び、時には悩みを語り合えるような場創りに努めるものとする。</p>

ワークショップ・茶話会の開催について

①開催目的及び内容

手しごとに代表される地域の民俗の伝承が困難となった被災地域において、参加者が自らの資質を向上させ人との結びつきを感じることができるような場を開設し、和・洋裁をはじめとした「手しごと」を学ぶワークショップを定期的実施する。このワークショップに参加した大人たちが自分たちが学んだ「手しごと」の技術を子どもたちに伝えることで、地域に還元する場を設定し、新たな地域貢献の在り方を見出していく。茶話会では、メンタルケアに関するミニ講話を盛り込むなどして、参加者同士が交流を深めながら楽しく学び、時には悩みを語り合えるような場創りに努める。

(講話及び実技研修2時間、茶話会1時間 計3時間程度)講師謝礼対象時間各回ごと2時間

②開催日 平成26年10月、11月各月ごとに2回 全4回

③開催場所 被災地域(宮城県亘理町内 WATALISワークショップ会場)

(亘理町内での開催については、被災地域内の公共施設などは通年で定期的に会場として使用することが困難な状況であるため、事務所隣接する建物を借用するものとする。)

④対象者 地域住民(子ども及び保護者、高齢者など 定員各回20名程度)

⑤講師 手しごと関係者1名 (謝金対象1名、@7,200×2H)

⑥広報 チラシ20件

配布先：地方公共団体、災害復興ボランティア関係団体、関係者、関係団体、他希望者

亘理町臨時災害ラジオ「FMあおぞら」に取材と参加呼びかけのための放送を依頼する。各種報道機関に情報を発信し、広範囲に周知を行う。亘理町内で活動するNPO法人に告知チラシ配布を依頼するほか、WATALISのHPでも事業実施の告知や実施状況の報告を行い、参加者の確保に結びつける。

予算

日蓮宗あんのん基金 145,800円

人員体制

主担当:代表理事 引地恵

副担当:理事 橋元あゆみ

副担当:理事 菊地喜久江